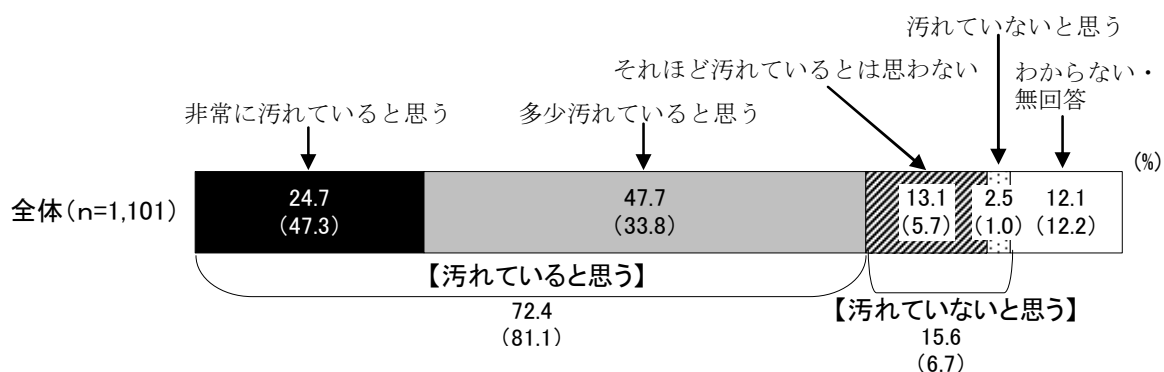


V 霞ヶ浦等の湖沼・河川の浄化

1. 県内の湖沼・河川の水質についての評価

—【汚れていると思う】が7割超—

問14 あなたは、霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼・河川の水質について、どのように思いますか。次の中から一番近いものを1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成15年の調査結果

県内の湖沼・河川の水質についての評価としては、「非常に汚れていると思う」(24.7%)と「多少汚れていると思う」(47.7%)を合わせた【汚れていると思う】(72.4%)が7割を超えている。一方、「それほど汚れているとは思わない」(13.1%)と「汚れていないと思う」(2.5%)を合わせた【汚れていないと思う】(15.6%)は1割台半ばとなっている。

—【汚れていないと思う】が約9ポイント増加—

前回調査(平成15年)と比べると、【汚れていないと思う】が約9ポイント増加している。一方、【汚れていると思う】が約9ポイント減少している。

—鹿行で【汚れていると思う】が8割台半ば—

地域別でみると、【汚れていると思う】は、鹿行(85.3%)で8割台半ばと最も高くなっている。

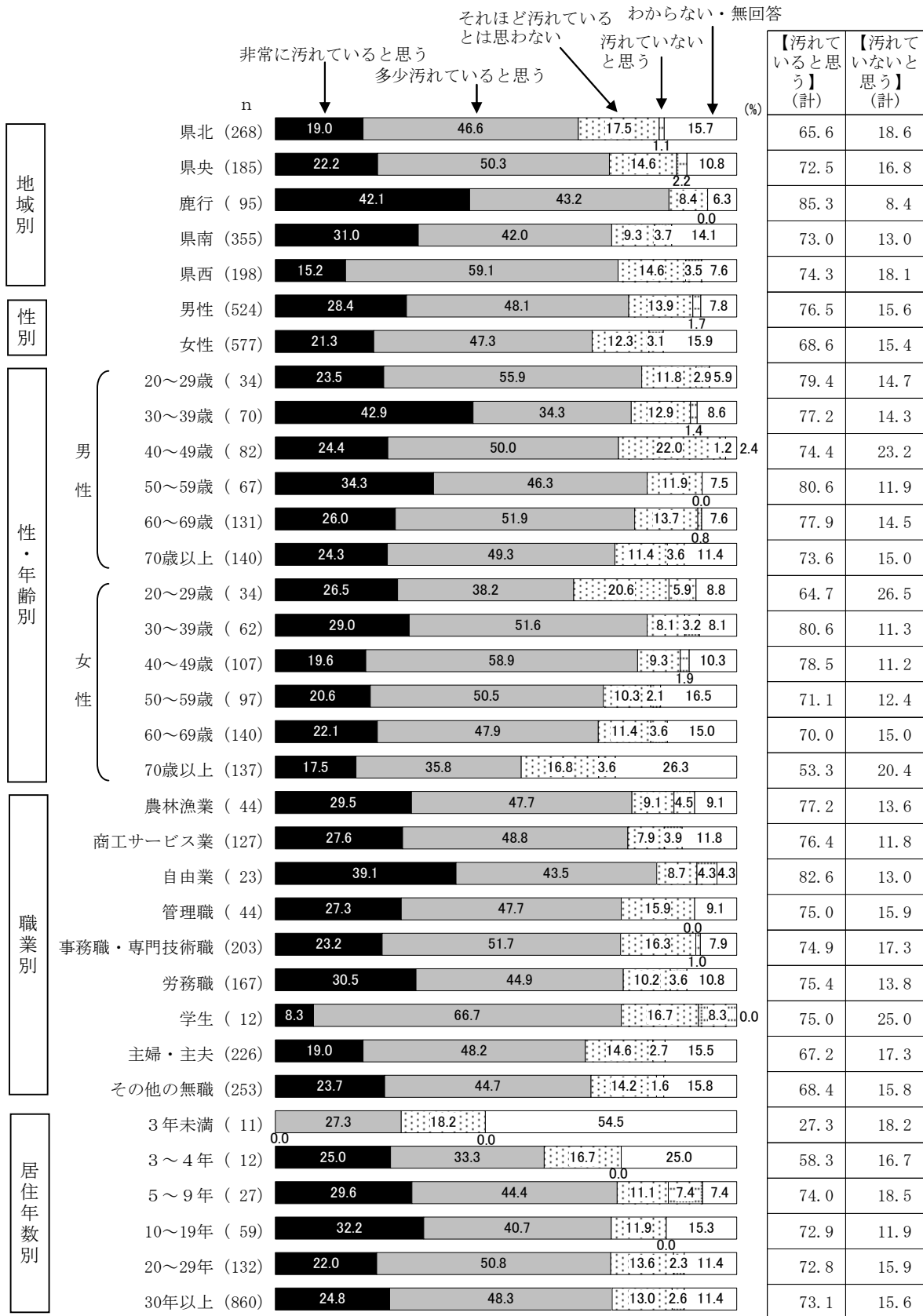
—男性で【汚れていると思う】が女性よりも約8ポイント高い—

性別でみると、【汚れていると思う】は、男性(76.5%)が女性(68.6%)よりも約8ポイント高くなっている。

—男性の50代と女性の30代で【汚れていると思う】が約8割—

性・年齢別でみると、【汚れていると思う】は、男性の50代(80.6%)と女性の30代(80.6%)で約8割と最も高くなっている。

図V 14-1 県内の湖沼・河川の水質についての評価
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, 居住年数別)

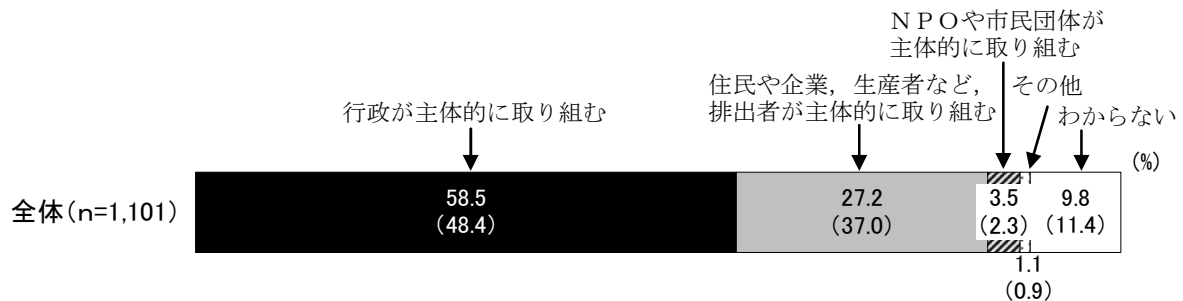


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

2. 県内の湖沼・河川の浄化に向けた取組体制

—「行政が主体的に取り組む」が約6割—

問15 今後の霞ヶ浦をはじめとする県内の湖沼・河川の浄化に向けた取り組みについて、どのような体制が望ましいと思いますか。次の中から1つだけ選んでください。



※()内の数値は、平成15年の調査結果

県内の湖沼・河川の浄化に向けた取組体制としては、「行政が主体的に取り組む」(58.5%)が約6割と最も高く、次いで、「住民や企業、生産者など、排出者が主体的に取り組む」(27.2%)が約3割で続いている。

—「行政が主体的に取り組む」が約10ポイント増加—

前回調査(平成15年)と比べると、「行政が主体的に取り組む」が約10ポイント増加している。一方、「住民や企業、生産者など、排出者が主体的に取り組む」が約10ポイント減少している。

—鹿行で「住民や企業、生産者など、排出者が主体的に取り組む」が3割台半ば—

地域別でみると、「住民や企業、生産者など、排出者が主体的に取り組む」は、鹿行(34.7%)で3割台半ばと最も高くなっている。

—男性で「行政が主体的に取り組む」が女性よりも6ポイント高い—

性別でみると、「行政が主体的に取り組む」は、男性(61.6%)が女性(55.6%)よりも6ポイント高くなっている。

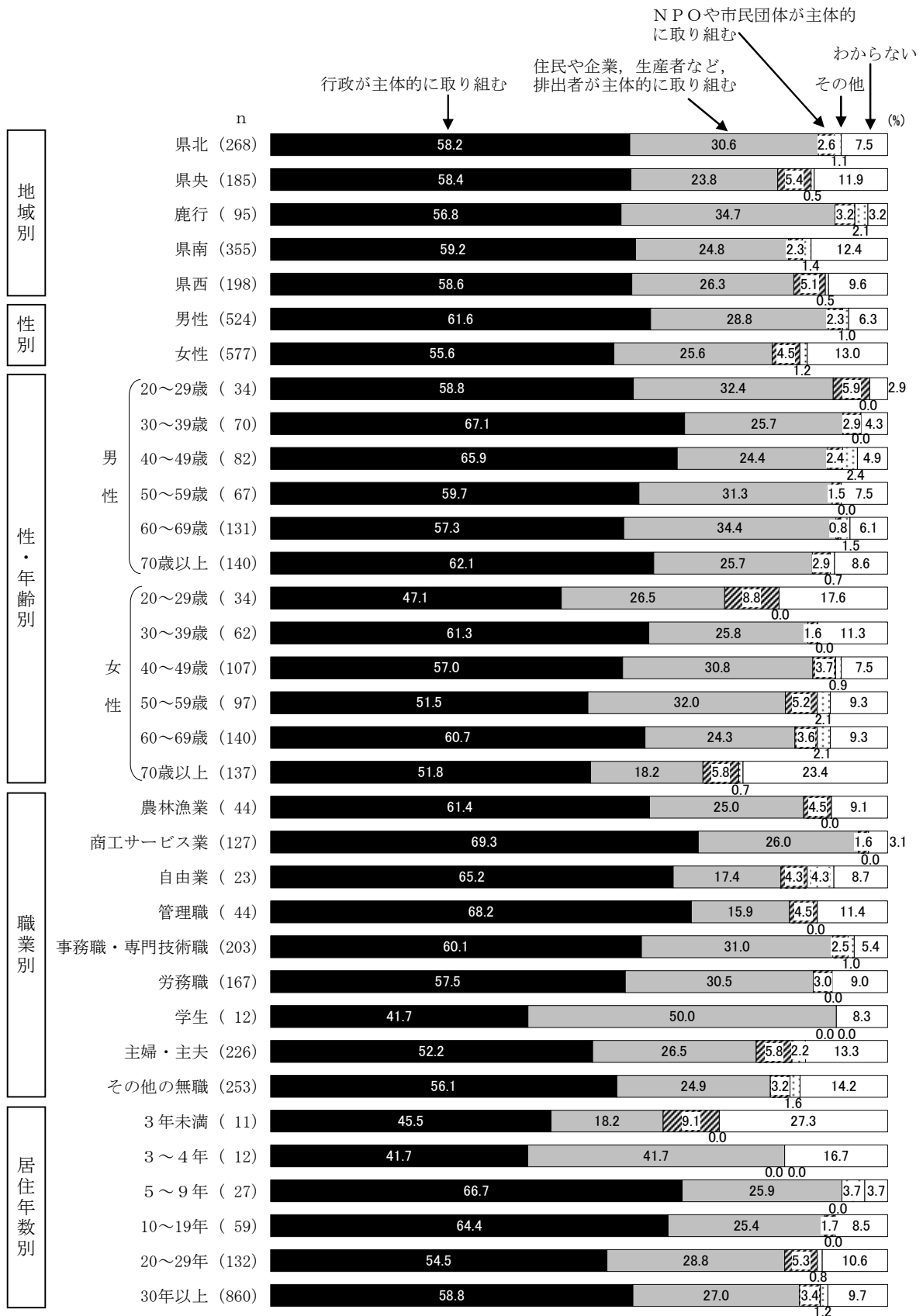
—男性の30代と40代で「行政が主体的に取り組む」が6割台後半—

性・年齢別でみると、「行政が主体的に取り組む」は、男性の30代(67.1%)と40代(65.9%)で6割台後半と高くなっている。

—商工サービス業と管理職で「行政が主体的に取り組む」が約7割—

職業別でみると、「行政が主体的に取り組む」は、商工サービス業(69.3%)と管理職(68.2%)で約7割と高くなっている。

図V 15-1 県内の湖沼・河川の浄化に向けた取組体制
(地域別、性別、性・年齢別、職業別、居住年数別)

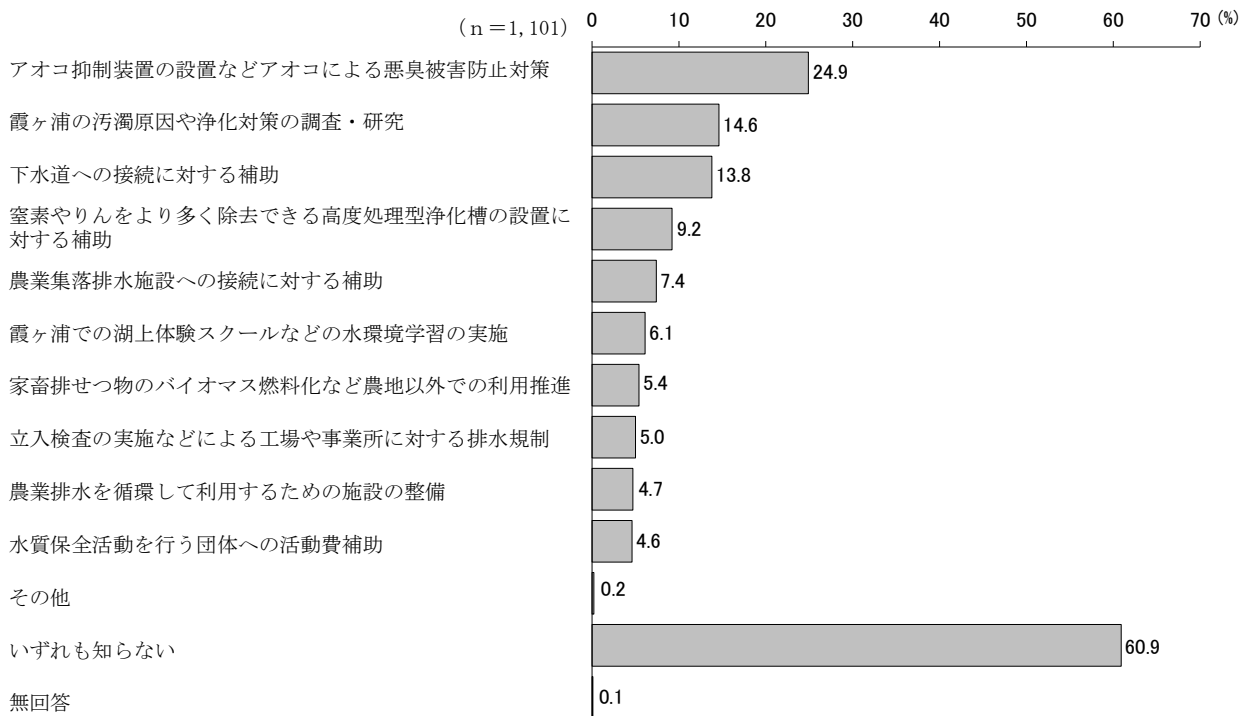


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

3. 森林湖沼環境税を活用した水質改善対策の認知状況

—「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」が2割台半ば—

問16 霞ヶ浦などを浄化するため、県が森林湖沼環境税を活用し、どのような対策を行っているか知っていますか。次の中から知っている対策をすべて選んでください。



森林湖沼環境税を活用した水質改善対策の認知状況としては、「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」(24.9%)が2割台半ばと高くなっている。次いで、「霞ヶ浦の汚濁原因や浄化対策の調査・研究」(14.6%)、「下水道への接続に対する補助」(13.8%)が1割台で続いている。一方、「いずれも知らない」(60.9%)が約6割と最も高くなっている。

—県南で「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」が3割台半ば—

地域別でみると、「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」は、県南(33.5%)で3割台半ばと最も高くなっている。「下水道への接続に対する補助」は、鹿行(22.1%)で2割を超えて最も高くなっている。

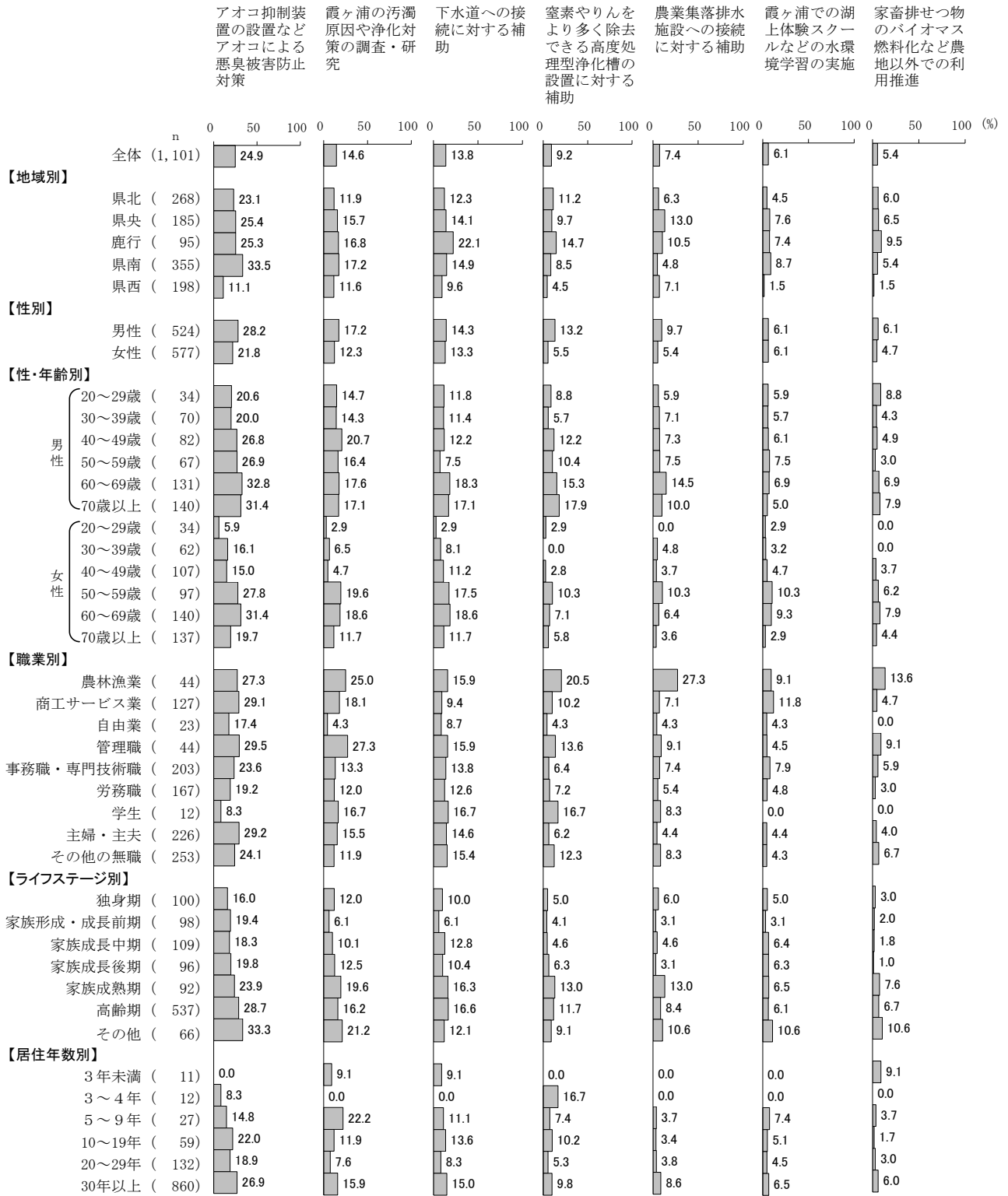
—農林漁業と管理職で「霞ヶ浦の汚濁原因や浄化対策の調査・研究」が2割台—

職業別でみると、「霞ヶ浦の汚濁原因や浄化対策の調査・研究」は、農林漁業(25.0%)と管理職(27.3%)で2割台と高くなっている。

—ライフステージ別のその他で「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」が3割台半ば—

ライフステージ別でみると、「アオコ抑制装置の設置などアオコによる悪臭被害防止対策」は、その他(33.3%)で3割台半ばと最も高くなっている。

図V 16-1 森林湖沼環境税を活用した水質改善対策
 (地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別—上位7項目)

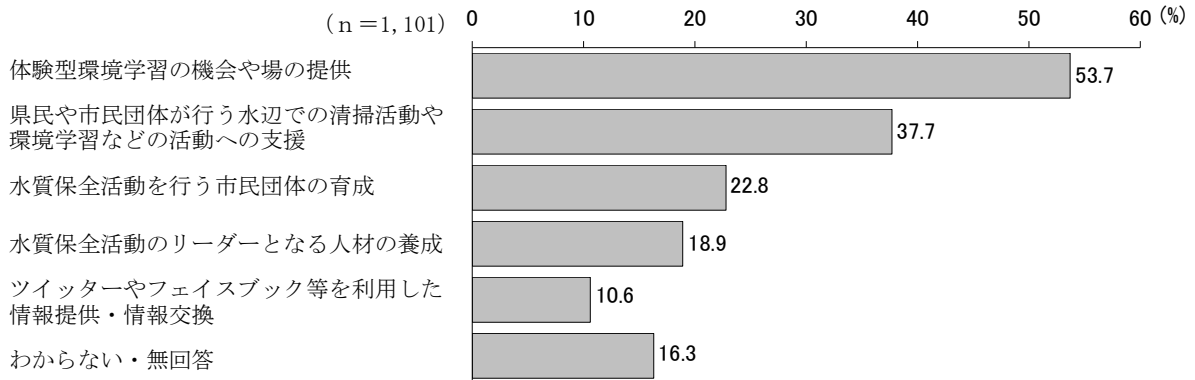


(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。

4. 重点的に取り組むべき水質改善対策

—「体験型環境学習の機会や場の提供」が5割台半ば—

問17 県は、今後、どのような意識啓発事業に重点的に取り組むべきだと思いますか。次の中から2つまで選んでください。



重点的に取り組むべき水質改善対策としては、「体験型環境学習の機会や場の提供」(53.7%)が5割台半ばと最も高く、次いで、「県民や市民団体が行う水辺での清掃活動や環境学習などの活動への支援」(37.7%)が3割台、「水質保全活動を行う市民団体の育成」(22.8%)が2割台で続いている。

—県西で「体験型環境学習の機会や場の提供」が約6割—

地域別でみると、「体験型環境学習の機会や場の提供」は、県西(59.1%)で約6割と最も高くなっている。

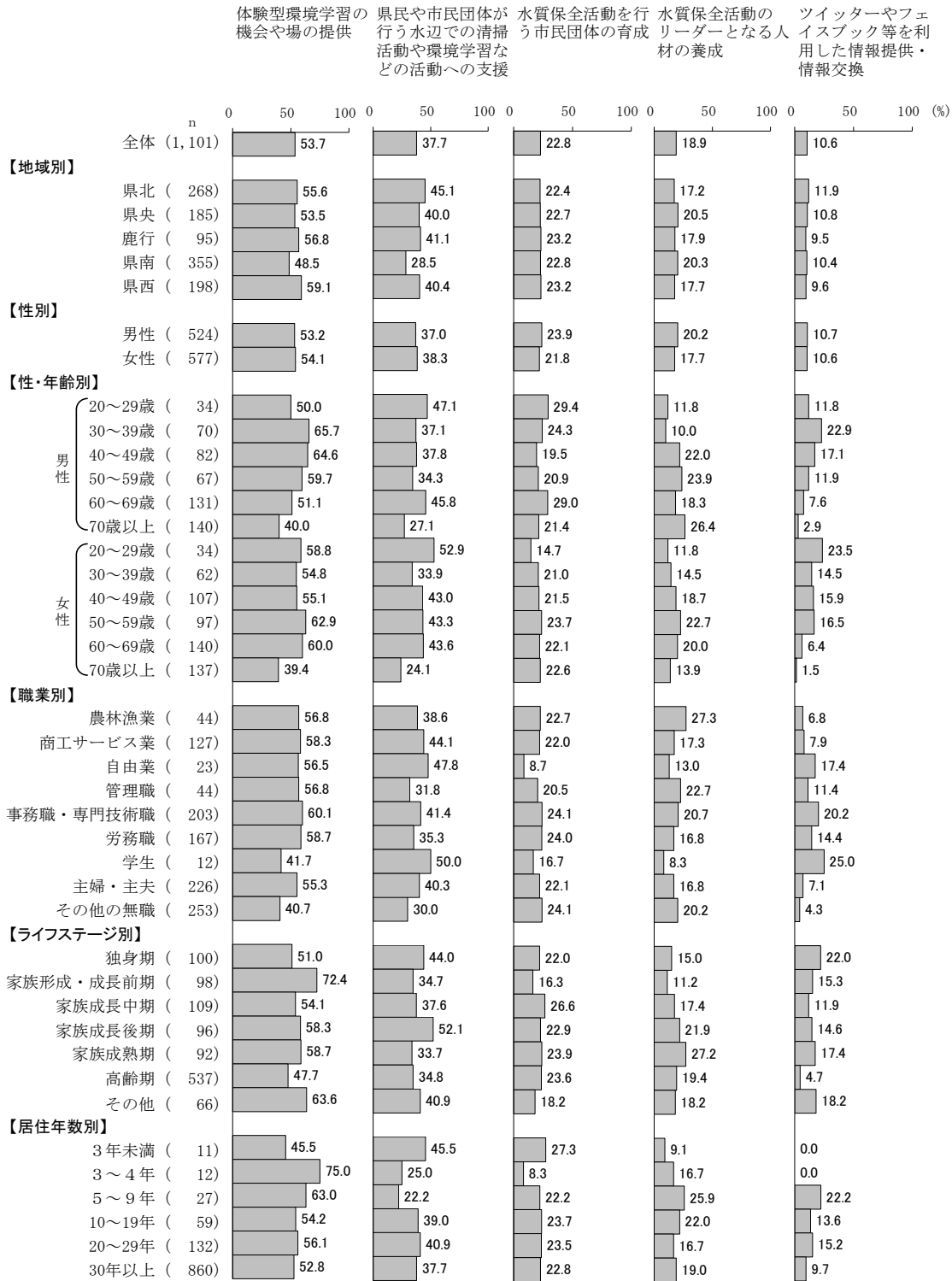
—男性の30代と40代で「体験型環境学習の機会や場の提供」が6割台半ば—

性・年齢別でみると、「体験型環境学習の機会や場の提供」は、男性の30代(65.7%)と40代(64.6%)で6割台半ばと高くなっている。

—家族形成・成長前期で「体験型環境学習の機会や場の提供」が7割超—

ライフステージ別でみると、「体験型環境学習の機会や場の提供」は、家族形成・成長前期(72.4%)で7割を超えて最も高くなっている。

図V 17-1 重点的に取り組むべき水質改善対策
(地域別, 性別, 性・年齢別, 職業別, ライフステージ別, 居住年数別)



(注) 回答者数が30未満の層は分析ではふれていない。